



## 環状七号線地下広域調節池(石神井川区間)工事

一般向け土木工事 見学会を行いました

- 日時：2024年8月2日(金) ■ 見学時間：10:00～12:00 ■ 参加者：30名
- 協力：東京都第三建設事務所 大成・鹿島・大林・京急建設共同企業体



一般の方々を対象にした見学会では、土木に関する施設を実際に見ていただくことで、日本の土木技術力やインフラ施設の重要性を感じてもらい、魅力ある建設業を伝えることを目的としています。

今回は「環状七号線地下広域調節池(石神井川区間)工事 見学会」を開催しました。

### ① 激甚化する水害から都民を守る 約5.4kmのトンネル式地下調節池

東京都では、台風や集中豪雨による水害から都民を守るため、河川の護岸や調節池等の整備による治水対策を進めている。

今回の見学場所である「環状七号線地下広域調節池(石神井川区間)工事」は、既に整備されている神田川・環状七号線地下調節池と白子川地下調節池を総延長5.4kmのトンネル式の地下調節池で連結し、貯留量を合計140万 $m^3$ に拡張する工事である。また、本工事により白子川・石神井川・妙正寺川・善福寺川・神田川の5河川間に調節池がまたがるようになるため、貯留量を複数の流域間で相互に融通することが可能となり、1時間あたり100mmの局地的かつ短時間の集中豪雨にも高い効果を発揮する。

当日は中野区大和町のインフォメーションセンターに集合。事業・工事の詳細なスライド説明に加え、セグメントに嵌める継手の実物を用いるなど、多様な解説に見学者も釘付けになった。



## **i** 立坑からトンネルへ！ 巨大設備の数々に終始圧倒

インフォメーションセンターに隣接する発進立坑に向かい、階段で地下約50mまで下りる。綺麗な円形にくりぬかれた坑口に向かうと、12.5mもあるトンネルの直径の大きさが良く実感できた。

本工事のシールドマシンは令和4年に発進立坑から初期掘進を行った。発進立坑の鉄筋コンクリート壁は厚さ2.9mあるが、シールドマシンに装備された特殊なビットによって直接切削して発進するという、世界初の試みも行われている。

見学時はシールドマシンが1.2kmほど進んでいるため、切羽付近まで行くことは出来なかったが、壁面にプロジェクターで投影された映像で、その様子を見ることができた。

トンネル内で記念撮影をした後、インフォメーションセンターに戻り、質問タイムを行った。夏休みの自由研究だろうか、小学生の子どもたちが「シールドマシンはどうやって地下に運ぶのか」「シールドマシンを作るのにどのくらいのお金がかかるのか」と積極的に質問している姿が、非常に和やかで印象的であった。



立坑内では地上部まで伸びたリフトを見上げることができる



自走台車に載せられた合成セグメント



坑口を見てトンネルの直径を実感

## 稼働中の工事現場を見学して

まさに目と鼻の先で、多くの土木技術者たちが力を合わせて地下調節池を造っている姿を間近で見られる、非常に生き生きとした見学会であった。開催日も8月上旬とゲリラ豪雨の頻発する時期であったため、本工事の重要性を身近に感じられる見学者も多かったのではないだろうか。技士会では、今後も一般の方々に向けて、土木の役割や重要性を伝えられるような企画を行っていく。

### 【一般参加者アンケート(抜粋)】

- ・ 完成したら入る事ができない工事中の現場を見学できて、貴重な体験をさせていただきました。申し込みをしてから見学会当日まで、とてもワクワクした気持ちで、娘と参加するのを楽しみにしていました。暑い中ありがとうございました。
- ・ 地下のトンネル内が以外と暑かったので驚き、この暑さの中、作業する方たちも大変だと感じました。最初のご説明にあった比較表で、浸水の被害が格段に減っているのを見て、地下広域調節池の効果と重要度がよく解って良かったです。

